（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和8年　7月31 日※1
（前回公表年月日：令和7年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
新潟こども医療専門学校	平成10年3月25日	大黒　健一	〒950-0084 新潟市中央区明石1-3-5 （電話）025-241-0136
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人 新潟高度情報学園	平成10年3月25日	田中　和枝	〒950-0084 新潟市中央区明石1-3-12 （電話）025-241-0133

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
教育・社会福祉	教育・社会福祉 専門課程	こども発達学科	平成22年 文部科学大臣告示第249号	－

学科の目的	職業教育の特色として実習の多さを活かしながら現場力を高める育成を目指す。そこから更に実践力の向上を目指し、就職につなげていく。
認定年月日	平成　27　年　2　月　17　日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	93単位	39単位	59単位	12単位	0	2単位
							単位

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30人	12人	0人	10人	11人	22人

学期制度	■前期：4月1日～9月20日 ■後期：9月21日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験・中間試験に重点を置き、平素の授業態度・確認テスト・授業出席率等多角的に評価した総合点によってA～Dの4段階評定をし、A～Cを単位認定する。
長期休み	■学年始：4月1日～4月5日 ■夏　季：8月1日～8月31日 ■冬　季：12月20日～1月7日 ■学年末：3月20日～3月31日	卒業・進級条件	・年間出席率90%以上 ・成績評価が全てC評価以上 ・学費および諸経費の年度内全納 上記全ての条件を満たすこと。
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談、保護者面談、補習指導等	課外活動	■課外活動の種類 保育園・幼稚園・認定こども園・施設でのボランティア活動 ■サークル活動：　有

就職等の状況※2

■主な就職先、業界等（令和7年度卒業生）
保育園　幼稚園　認定こども園　障害者支援施設　一般企業

■就職指導内容
就職相談　履歴書作成指導　面接練習　各種就職ﾃﾞｰﾀ提供

■卒業者数		15	人
■就職希望者数		15	人
■就職者数		15	人
■就職率	:	100	%
■卒業者に占める就職者の割合	:	100	%

■その他
・進学者数：　0人

（令和　7 年度卒業者に関する
令和8年5月1日 時点の情報）

主な学修成果（資格・検定等）※3

■国家資格・検定/その他・民間検定等
（令和7年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報）

資格・検定名	種	受験者数	合格者数
幼稚園教諭二種免許状	①	15人	15人
保育士資格	①	15人	15人
社会福祉主事任用資格	①	15人	15人
Microsoft OfficeSpecialist Word 2016	③	15人	15人
Microsoft Office Specialist Excel 2019	③	14人	14人
幼児体育指導者検定2級	③	14人	14人

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄

中途退学の現状

■中途退学者　0 名　■中退率　0 %
令和7年4月1日時点において、在学者27名（令和7年4月1日入学者を含む）
令和8年3月31日時点において、在学者27名（令和8年3月31日卒業者を含む）
■中途退学の主な理由

■中退防止・中退者支援のための取組
補習授業、個別ガイダンス、保護者面談、授業内容の見直し、卒業生による講話の開催、現場見学、学校生活の充実化等

経済的支援制度

■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：（有）・　無
入学年次生・・・特待生制度（初年度後期授業料全額免除）、指定校推薦制度（初年度後期授業料半額免除）など
進級年次生・・・学内優待生制度（前期・後期ごとに人物審査を行い、合格者には各期の授業料を半額免除

■専門実践教育訓練給付：　給付対象・~~非給付~~対象
※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：（有）・無
※有の場合、例えば以下について任意記載
（評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）

当該学科のホームページURL

https://kodomoiryo.com

（留意事項）
1．公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3．主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

学校教育法に基づき、教育・保育・社会福祉分野における専門的な知識、技術の教授と併せ、道義・礼節・作法などの高い教養人格を備えた短期大学士取得にふさわしい、社会人ならびに専門的職業人を養成する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

学校法人新潟高度情報学園　新潟こども医療専門学校教務部こども分野こども発達学科に附する専属委員会である。
当該学科の教育課程編成に関し、各科目のねらいを理解した上で、特に実習、実践的科目に関しての助言を行う。
委員会の意見および意志は、こども発達学科主任により、カリキュラム編成に活かされ、学校長の決裁により施行される。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
吉澤　克彦	新潟県立大学　非常勤講師	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
小林　誉尚	社会福祉法人　とよさか福祉会　豊栄福祉交流センター　施設長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
長谷川　玲子	学校法人　新潟高度情報学園　ほたるこども園　園長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
大黒　健一	新潟こども医療専門学校　学校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	
金子　貴之	新潟こども医療専門学校　副校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	
石川　美穂	新潟こども医療専門学校　教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	
板垣　裕	新潟こども医療専門学校　教務課長 こども発達学科　主任兼務	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	
高橋　百合子	新潟こども医療専門学校　こども未来学科　主任	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	
渡邉　みゆき	新潟こども医療専門学校　こども学科　主任	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回（夏季・冬季）

（開催日時）
第1回　令和7年9月11日　15:00～16:30
第2回　令和8年2月19日　15:00～16:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

次年度以降の授業科目開設や授業内容方法改善等につなげることを組織として決定する。教育・保育現場における、実践的職業人育成を目指し、現場に依拠した授業内容をカリキュラムに導入する。編成委員の意見を活用した授業構築ならびにフィードバックの充実を図る。
今は多様性を認める時代であり、学生の特性に合わせた指導が必要だが、専門分野の採用先のことを思えば養成校の責任は重い。教育理念を守り、教育の質を落とさず、幅広い学びや知恵を付けられるような授業を展開させていきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

目指すべき職種を正しく理解するとともに、社会生活の基本的ルールを身につけ、社会に貢献する精神を育むことが求められる。よって、現場や社会との緊密な連携や協力のもとに、情報収集可能な機会充実を図っていく。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

学校と企業等が教育・保育の専門職業人育成の発展面で、緊密な連携を図ることを共通目標とし、実践的技能習得に取り組んでいる。
具体的には、グループ園における教育実習もしくは保育実習での指導の他、日常的な情報交換ならびに交流を行い、効果的な学生指導のみならず、教職員の質的向上に活かすべく連携を図っている。実習終了時には、当該園実習担当者から提出される個別評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
教育実習	幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務について学ぶ。 子どもの実態を知り、指導や援助方法について学ぶ。	にごりかわこども園 愛泉こども園 認定こども園　和光幼稚園 聖公会聖母こども園 双葉こども園 めぐみ幼稚園　　他
保育実習Ⅰ （保育所）	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深める。 保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。	にこにここども園 西部保育園 新潟市立若葉保育園 荻川ほのぼの保育園 摂田屋保育園 まつだい保育園　　他
保育実習Ⅰ （施設）	利用者とのふれあいを通じて支援の機能や施設職員の役割について理解する。	コトイロ日和 ワークセンター千秋 クローバー　歩みの家 ほっとサポートしんえい かきのみ園 なかまの家　他
保育実習Ⅱ	乳幼児への理解をさらに深め、発達段階に合わせた援助について学ぶ。	新潟市立万代保育園 新潟市立和納保育園 一ノ門わくわく保育園 沢根保育園 浦佐認定こども園 竹野町保育園　　他
保育実習Ⅲ	児童福祉施設等（保育所以外）の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能と保育士の職務について学ぶ。	ひまわり学園 新潟市立児童発達支援センターこころん 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教職員は担当教科における指導をより豊かなものにするため必要な知識・技術の向上を図るとともに、新たな業務上の要請に応えるために自らの能力開発に努めなければならない。また教職員は指導力向上のため、教育・研修等を受ける権利を有するものとする。これに対して、学校はそれぞれの教職員の専門分野、経験および能力に応じて適切な研修を受けさせるよう努めなければならない。

このことは本校研修規程第2条に明記されており、教職員個々の指導力向上ならびにこども発達学科全体の組織力強化に結びついている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・国立大学法人上越教育大学附属小学校2025年　夏の音楽集会（2025年6月）
・第47回　長野県伊那市立伊那小学校公開学習指導研究会（2026年2月）
・一般社団法人新潟県私立幼稚園・認定こども園協会　懇談会（2026年2月）
・新潟市こども未来部主催　保育実習についての情報交換会（2025年10月）
・一般社団法人新潟県私立幼稚園・認定こども園協会　懇談会（2025年7月）
・誰でも楽しめるスポーツ「ボッチャ」の魅力と今後の展望（Ⅱ）―幼児教育施設における遊びを通しての保育実践―（日本乳幼児教育学会　ポスター発表）（2025年12月）

②指導力の修得・向上のための研修等

・一般社団法人新潟県私立幼稚園・認定こども園協会　令和7年度幼児教育講座（2025年8月）
・道徳研究会（2025年8月）
・新潟県専門学校協会教職員交流会（2025年12月）

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・日本健康相談活動学会　第23回学術集会 （2026年）
・ 日本乳幼児教育学会　第36回大会 （2026年11月）

②指導力の修得・向上のための研修等

・道徳教育研究会（2026年8月）
・読み聞かせボランティア入門講座（2026年6月～7月）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの妥当性について評価することにより、学校としての組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者等による評価実施と結果公表により、適切に説明責任を果たし、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・学校の理念、目的、育成人材等は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校における職業教育の特色は何か・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
（2）学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規程等は整備されているか ・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか
（4）学修成果	・就職率の向上が図られているか・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
（5）学生支援	・進路、就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか
（6）教育環境	・施設、設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか・防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているのか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
（9）法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか・自己評価結果を公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献、地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座、教育訓練(公共職業訓練等を含む)の委託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

教職員は学校関係者評価委員会で挙げられた問題点および改善点について役職者会議や職員会議、学科会議を行い、より密な共通理解を行い、次年度に向けてその改善策ならびに具体的実行案の検討・実行を進めており、職員のチーム力向上を進めている。各学科特有の問題点を共通理解することにより、より細かな理解、改善に向けての実施に繋がっている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
林　正海	はやし社会福祉士事務所代表	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	企業等委員
木村　雄介	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 済生会新潟病院　診療支援室　室長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）・広報誌等の刊行物・その他（　　）

URL:

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育理念や目標、活動内容等をHPやSNSで情報公開することにより、企業等の学校関係者に対して情報提供を行っている。また、総合パンフレット・就職状況リーフレットだけでなく、教育関連の各種印刷物等の資料提供や学校見学の実施など、本校に対する正しい理解を深めていただける機会をつくり、適切な評価や助言をいただけるよう配慮している。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	・教育方針・育成人材像・目標・沿革・学校長名・所在地・連絡先
（2）各学科等の教育	・教育方針・育成人材像・目標・募集定員・進級条件・卒業条件 ・取得を目指す資格・資格取得実績
（3）教職員	・教職員研修・教職員の専門性・学科、職制別教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	・企業との連携による実習カリキュラム・支援体制
（5）様々な教育活動・教育環境	・学外学習・防災避難訓練・全校行事・校内での企業説明会・教育設備
（6）学生の生活支援	・クラス担任制・学生寮・就職相談・中途退学への対応・学生相談・学生生活 ・保護者との連携・卒業生・学内優待制度
（7）学生納付金・修学支援	・学費・諸費用・入学選考・出願資格・AO入試制度・併願制度 ・学費支援制度・奨学金制度
（8）学校の財務	・資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・固定資産明細書 ・基本金明細表
（9）学校評価	・学校自己点検・自己評価の公開
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

URL:https://kodomoiryo.com

授業科目等の概要

（教育・社会福祉専門課程こども発達学科）令和８年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			憲法	日本国憲法の特徴と全体像を理解できるような授業を行う。 日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって日本国憲法の基本的事項・重要事項の理解をはかる。	３前	30	2	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	演習を通じ、パソコンの環境設定、基本操作、Wordの基礎から活用操作までを学習する。また、テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。 Excelの基本操作、プレゼンテーションの概要を学習する。	１通	60	2		○		○		○		
○			健康科学	生涯健康でいるために必要な知識を身につけ、実践する能力を養う。健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。	３後	15	1	○			○		○		
○			スポーツ（実技）	運動や遊びの重要性・必要性を理解し、現場での具体的な運動計画を構築するための素地を養う。	１後	30	2			○	○	○		○	
○			英語 コミュニケーション	英文法の基礎を学習し、英文読解のルールを用いて英文を読む。また、保育現場での様々な生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、コミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。	１後	60	2		○		○			○	
○			社会福祉論	家族がそれぞれ抱えている課題、現代社会の課題を知り、家族や地域を支援する保育士の役割を理解する。社会福祉全般の制度に対して理解を深める。	１前	30	2	○			○		○		
○			音楽表現論	音楽理論の学習を通して、保育現場で音楽活動を展開する上で必要とされる実践的な音楽の知識・技能等を習得する。	１前	30	1	○			○		○		
○			造形表現論	造形教育の目的の理解と併せて、保育内容（表現）や図画工作科の内容を理解する。 材料体験や造形表現活動の経験を豊かにし、造形教育において必要な知識や技術を体験的に理解し、習得する。	１前	30	1	○			○			○	
○			表現とこどもの運動	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを学ぶ。 表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現運動遊びを展開する知識及び実践力を理論的に深める。	２前	30	1	○			○			○	
	○		こども家庭福祉	子どもをとりまく環境やこれまでの歴史を学び、子どもたちを支援していく上で今必要な知識は何かを学ぶ。 保育・福祉の現場で必要とされる制度について学ぶ。	１後	30	2	○			○		○		

	○		こども家庭支援論	障害児支援の歴史、合理的配慮を必要とする子どもの保育・教育を支える理念や法律・制度を踏まえ、各障害の症状や特性と支援方法について学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○		
	○		こどもの発達と 家庭支援	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期発達の重要性や発達課題等について学ぶ。また、家族や親子の関係について発達的な観点から学ぶとともに、今日における子育てや家庭支援の課題を社会的要因から考察する。	1 後	30	2	○			○			○	
	○		こどもと造形	造形教育の目的の理解と併せて、保育内容（表現）や図画工作科の内容を学習する。 造形表現活動を展開するために必要とされる多様な材料体験や造形表現活動の経験を豊かにし、造形教育において必要な知識や技術を体験的に理解し習得する。	2 後	30	1		○		○			○	
	○		言葉とこどもの文化	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、子どもが豊かな言語表現活動を行うために必要な、児童文化財に関する知識や保育技術を習得する。音や言葉の面白さを知るとともに、さまざまな指導技術を学ぶ。	1 前	30	1	○			○		○		
	○		こどもの保健	成長・発達を続けている小児の健康の意味を理解し、小児の疾病とその予防対策、事故と安全対策などの知識を習得し、実践能力を身につける。	2 前	30	2	○			○		○		
	○		こどもの健康と安全	子どもの健康状態をどのように評価するのか学び、子どもの姿を正しく捉えること、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策を踏まえた保健計画や活動内容について知識を深める。また、子どもの体調不良等に対する適切な対応について、実践できる力を養う。	3 後	30	1		○		○		○		
	○		子育て支援	保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、身につける。 子育て支援の意義や役割について理解し、保育者としての子育て支援の基本姿勢について関心を持つ。また、子育て支援の意義や役割、基本姿勢など支援の実際を学ぶ。	3 後	30	1		○		○		○		
	○		保育原理	保育の意義について明確な認識を持ち、その依拠する理論を理解する。また、地域における「保育所」の役割を「子育て支援」という観点から吟味する。同時に、保育の原理及び保育の歴史的変遷と保育思想について理解する。	1 前	30	2	○			○			○	
	○		社会的養護Ⅰ	社会的養護及び児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度等、社会的養護についての基礎的な知識を学習する。	1 後	30	2	○			○		○		
	○		こどもの食と栄養	こどもの身体の特徴を理解し、小児期に必要な栄養・食生活の重要性を学習する。 それぞれの時期に応じた食事の知識を習得する。	2 後	60	2		○		○			○	
	○		障害児保育	障害児保育の歴史と障害の特性について学ぶ。個々の障害特性を理解し、インクルーシブ保育を実践する視点から保育者として必要な力を身に付ける。	2 後	30	2	○			○		○		

	○		環境論	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎知識を得る。子どもの発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解し、校外学習を通して環境構成の実践を行う。	2前	30	1	○			○		○		
	○		人間関係論	保育現場における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とのかかわりについて理解する。保育の全体構造における人間関係に関して、総合的に指導・援助を行うための理論や知識を習得する。	1前	30	1	○			○		○		
○			教育原理	教育の基本的な概念と基礎理論について概括することを通じて、教育の意義、目的、近代学校成立の過程、教師の仕事の役割、授業における指導原理について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			教育心理学	学習（学ぶこと）と発達（育つこと）を中心に教育心理学の知見を広く学習する。教育心理学の知見を用いた教育心理学に基づく保育や教育の実践に関しても併せて検討する。	2後	30	2		○		○			○	
○			こどもの指導法「健康」	子どもの健康な心と体を育て、健康で安全な力を作りだすための内容について学び、保育者の援助や関わり、発達援助に必要な知識技能を習得する。	2前	30	1		○		○		○		
○			こどもの指導法「人間関係」	保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とのかかわりについて理解し、保育の全体構造における人間関係に関して総合的に指導・援助を行うための理論や知識を習得する。	1後	30	1		○		○		○		
○			こどもの指導法「環境」	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎知識を得る。子どもの発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解する。	2後	30	1		○		○		○		
○			こどもの指導法「言葉」	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、保育者の言葉のあり方、姿勢などを学習し、発達段階に合わせた関わりと言葉がけの大切さについて理解を深める。	1後	30	1		○		○		○		
○			こどもの指導法「リズム表現」	楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった、音楽の基礎知識や技術を身に付け、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。	1前	30	1		○		○			○	
○			こどもの指導法「造形」	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。	2後	30	1		○		○			○	
	○		教職論	保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ、社会的役割、必要とされる専門的な能力を理解し、保育者にふさわしい資質を身につけようとする態度を養う。	1前	30	2	○			○		○		

	○		特別支援教育	特別な教育的ニーズをもつ子どもたちの支援にあたり、その特性の理解、支援のために必要な社会資源や関係機関の知識、個別の教育支援計画の作成方法と利用方法、教育課程の学びと生活の場の在り方について学習する。	2前	30	1	○			○		○		
	○		発達心理学	発達の概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特徴について学び、人間理解の基礎を培う。	1前	30	2	○			○			○	
	○		教育課程論	保育の長期的見通し、教職員の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を学ぶ。また、「計画・実践・反省・改善」の関連性についての実例を理解すると共に、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。	2後	30	2	○			○		○		
	○		保育内容総論	養護と教育が一体となった保育、領域の考え方や保育内容について総合的に理解を深める。また、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育実践と結び付けて学ぶ。	1前	30	1	○			○		○		
	○		こどもの指導法 「言語表現」	自己紹介絵本制作を通して児童文化財への理解を深めると共に、制作技術の向上を図る。 自身の保育観に沿った絵本選びを行い、絵本の読み聞かせについて実践的な技術を習得する。	2前	30	1		○		○		○		
	○		こどもの指導法 「音楽表現」 基礎演習Ⅰ	ピアノの実技レッスンを通して、ピアノの演奏技術向上を図る。 ソルフェージュ歌唱の練習を通して、歌唱にふさわしい発声法、正しい音程での歌唱を修得する。	1通	60	1		○		○		○	○	
	○		こどもの指導法 「音楽表現」 基礎演習Ⅱ	ピアノの実技レッスンを通して、ピアノの演奏技術向上を図る。 ソルフェージュ歌唱の練習を通して、歌唱にふさわしい発声法、正しい音程での歌唱を修得する。	2通	60	1		○		○		○	○	
	○		こどもの指導法 「音楽表現」 実践演習	ピアノの実技レッスンを通して、ピアノの演奏技術向上を図る。 ソルフェージュ歌唱の練習を通して、歌唱にふさわしい発声法、正しい音程での歌唱を修得する。	3前	30	1		○		○		○	○	
	○		教育方法論	教育方法の定義と意義、歴史について学ぶ。 また、教育方法の手段について、児童側に立った教育方法の特徴を学び、教育技術と情報機器活用の観点などから理解を深める。	2前	30	2	○			○		○		
	○		こどもの理解と 相談支援	相談支援の目的である、こどもの人間形成、人格形成について学ぶ。幼児、児童、生徒を対象とした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応などについて学ぶ。 また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。	2前	30	2	○			○		○		
	○		こどもの理解と援助	私たちはどのようにしてこころを理解するのだろうか？本授業では、発達心理学や教育心理学の知見をベースに子どものこころを理解するための方法について学ぶ。また、子どものこころの理解を通した教育や保育の在り方について考察する。	3後	30	1		○		○		○		

	○		乳幼児保育Ⅰ	乳児保育の理念と役割を理解する。 3歳未満児の発達を理解し、個々の発達を促す保育内容とは何か考える。	3後	30	2		○		○		○		
	○		乳幼児保育Ⅱ	発達についてのグループワークを通し、3歳未満児の発達やそれに沿った保育者の関わりを学ぶ。 子どもの言動や保育者の関わりの意図、養護と教育が一体的に行われ、すべての経験が学びとなっていることを理論的に考察する。	3後	30	1		○		○		○		
	○		社会的養護Ⅱ	社会的養護及び児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度などを学習する。	2後	30	1		○		○		○		
	○		教育実習事前・事後指導	幼稚園教育実習の反省や評価を基に、これまで修得した専門知識を振り返る。保育者に求められる専門的な知識が定着出来るよう学びを深める。幼稚園教育をめぐる諸問題及び解決のための取り組み等について知見を広げる為、事例問題についてグループで話し合い、専門性の向上を図る。	3後	15	1		○		○		○		
	○		保育実習指導Ⅰ	実習のマナーや保育者としての倫理などについて理解する。 保育用語を知り、文章力や日誌の書き方などを身に付ける。 グループ園実習を通して、保育を観察する力を養う。	1前	30	2		○		○		○		
	○		保育実習指導ⅡⅢ	保育実習の意義・目的・方法を理解する。 実習課題の明確化、実習記録の意義、方法の理解を図る。保育実習を通して、保育場面の中で留意するべき事柄を理解する。	2後	30	1		○		○		○		
	○		教育実習	幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務について学ぶ。子どもの実態を知り、それに適した援助について理解を深める。日々の体験・評価・反省を通して自己課題を明確にする。	3前	180	4			○		○	○		○
	○		保育実習Ⅰ （保育所）	保育所の生活に参加し、乳幼児に対する理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。	2前	80	2			○		○	○		○
	○		保育実習Ⅰ （施設）	児童福祉施設等（保育所以外）の生活に参加し、利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能と保育士の職務について学ぶ。	2後	80	2			○		○	○		○
	○		保育実習ⅡⅢ	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深める。保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。 児童福祉施設等（保育所以外）の生活に参加し、利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能と保育士の職務について学ぶ。保育実習Ⅰで学んだ知識技術を活かし、より応用力のある援助や関わりを身につける。	3後	80	2			○		○	○		○
	○		保育・教職実践演習	現在の保育実践上の課題、子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を発見し、その改善に向けての方策を考える。 問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養うため、現在の保育問題（少子化、保育制度、子育て支援、幼小連携等）について調べる。身近な具体的課題を設定し、テーマ毎に研究、グループ討議、研究発表を行う。	3前	30	2		○		○		○		

○			実習指導Ⅰ	保育実習の意義・目的・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義、方法の理解を図る。保育実習を通して、保育場面のなかで留意すべき事柄を理解する。	1通	30	2		○		○		○		○
	○		教材研究Ⅰ	保育現場で活用できる保育グッズを作り、演じる練習をする。保育者としての基本的な技術を身につける。	1通	60	2		○		○			○	
	○		教材研究Ⅱ	ペープサート、牛乳パックシアター等の保育グッズを制作する。 手遊びや折り紙など、基本的な教材技術の習得を目指す。 活動の導入や演出を工夫すること、グループワークや発表の際の自己発揮、人前での表現に慣れていくことを目的とする。	2通	60	2		○		○			○	
	○		教材研究Ⅲ	日々の保育で活用するための保育グッズを制作する。制作遊びとその導入の方法、保育グッズの使用方法を習得する。 また、人間劇の制作および保育現場での劇公演を通して、制作技術向上と表現力の向上を図る。	3通	60	4		○		○			○	○
	○		音楽表現（応用）	音楽表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。	3前	30	1		○		○		○	○	
	○		情報処理Ⅱ	幼稚園や保育園などの教育機関で働く上で必要となる、名簿の作成、表作成、データベースの処理等のExcelの知識と技術を習得し、それらを活用する能力を身につける。	2通	60	2		○		○		○		
	○		情報処理Ⅲ	保育現場で情報機器を実践的に活用するためのPowerPointの基本操作を習得する。 PowerPointを使用し、おたよりやデジタル絵本を作成する。	3通	60	2		○		○			○	
	○		幼児体育応用	グループ毎に発達過程に応じた運動遊びを考え、発表することを通して、運動遊びと発達の関係について理解を深める。また、子どもたちが主体的に楽しく遊びを展開したり、遊びを深めるための援助方法を学ぶ。	2後	30	1		○		○			○	
	○		ＲＧＳⅠ	就職活動を行う際に必要となる、履歴書等書類の作成方法について学ぶ。 模擬就職試験を行い、就職内定を獲得するためのスキルを身につける。	2後	30	1		○		○		○		
	○		ＲＧＳⅡ	就職活動を行う際に必要となる履歴書等書類の作成方法を学ぶ。 模擬就職試験を行い、就職内定を獲得するためのスキルを身につける。	3前	30	2		○		○		○		
	○		実習指導Ⅰ	実習に臨む上での基本的な心構えを理解する。日誌の書き方、指導案の立て方を学ぶ。 実習の振り返りを通して課題や反省点を明確にする。	1後	30	2		○		○		○		

	○		実習指導Ⅱ	実習に向けての基本的な心構えを理解したり、幼稚園実習について理解する。 日誌の書き方、指導案の立て方を確認し、多方面から「活動」を考える。 実習の振り返りをその都度行い、課題や反省点を明確にし次の実習に繋げる。 見通しをもち、臨機応変に動く力や子ども達の前で演じる（伝える）力を身につける。	2 後	30	2		○		○		○		
	○		実習指導Ⅲ	日誌の書き方、指導案の立て方を確認して考察や「活動」を多方面から考える。 卒業後の自分の姿を見据えて実習の振り返りをし、課題や反省点を明確にする。 見通しを持ち場面に対応して動く力や相手に伝える力を身につけるなど保育者としてのスキルアップに繋げる。	3 通	60	2		○		○		○		
	○		基礎実習Ⅰ	グループ園実習を通して、学校で学ぶ倫理と園での保育実践のすり合わせをしながら、子どもの発達や保育者のかかわりを体験的に理解し、様々な技術を習得する。 　また、社会人としての道義・礼節・常識についても気づき、身につける。	1 通	40	1			○			○		○
	○		基礎実習Ⅱ	・子どもの発達過程を理解し、保育環境や援助の在り方について考える。 ・立案を学び、年齢に合った指導案を作成し、実践する。	2 後	40	1			○			○		○
	○		卒業研究	卒業研究執筆に向けて、論文執筆についての基礎的な知識を獲得する。	3 通	60	4		○		○		○		
	○		卒業制作	在学期間の集大成となる卒業発表制作を行う。最終制作課題であることを意識した作品作りを目指す。	3 後	30	1		○		○		○		
	○		総合演習	教育・社会福祉分野における専門的な知識・技術の習得を目指す。 教養・人格度の高い社会人を目指し、道義・礼節・作法を身につける。	1 2 3 通	各 30	3		○		○		○		
合計				72　科目	3135単位時間(　　118単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
・卒業に必要な総単位数93単位以上を取得	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	18週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。